

公表 所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	児童デイサービスいとかの杜		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 29日		～ 令和7年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 16日		～ 令和7年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 18日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	嬉しいことに、保護者と児童の満足度が高く、事業所に通うのを楽しみにしてくれている児童が多いこと。利用児童も増えつつあり、4～5名の小集団ができることから、職員配置により個別への支援配慮を一層共有することが重要だと考える。	児童発達支援の利用児童にはほぼ1対1で支援に対応できるよう、職員のシフトを組んでいる。	事業所の社用車も3台所有しているが、現時点で4か所送迎も必要となっていることから、来年度には1台増やすことを検討している。
2	いとかタイムと体験プログラムの集団療育と、自由活動と専門的個別支援の個別療育を行っていること。	体験プログラムやいとかタイムには、利用開始したばかりの児童がなじむまで、1対1対応で支援している。小集団に慣れてきたら専門的個別支援で支援を手厚くしていくようにしている。	専門的個別の実施回数をさらに充実させていくため、専門的支援を2人同時に進めるよう、職員の役割分担を工夫したい。
3	個別支援計画とモニタリングを細やかに計画からインフォーマルなアセスメントを重要視していること。	支援経過を相談支援事業所にも共有し、育ちの姿をエピソードを交えて、変化が見えるようにモニタリングで伝えることを心がけている。	こども園等との連携強化に向け、個別支援計画やモニタリングで見た育ちの姿の情報を共有していくよう、担任に情報が伝わるよう働きかけをしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域連携の点で、計画相談支援事業所とは日頃からの連携は密に行っているものの、第三者委員や市役所や支援センターとの連携は、必要に応じて行っていた。	一人ひとりの事例に応じて関係機関と必要十分な連携を重要視している。	第三者委員や、法人内における連携は、改善の余地があるととらえている。
2	マニュアルの可視化の点で、事業所内に掲示しているだけで、保護者が気軽に手にとることもなかったため、HPへの掲載するとともに、マニュアル自体も見直しが必要だと感じている。	マニュアルの中身の検討があまり進められていなかった。マニュアルを改善するよりも、実際の業務上、感じたことや改善の余地があるものに労力をかけていたことから、マニュアルの大切さを軽視してしまっていた。	事業所運営上、必要不可欠なマニュアルは、職員にもご家族にも周知をすることが必要。
3	常勤職員の業務量が多く、業務量に偏りが生じてしまうため、業務の見直しや、内容の精査、OJTや内部研修を充実させていくことが課題だと感じている。	常勤職員には一人1台パソコンがあり、共有ファイルを使用しているが、パート職員にはパソコンはなく、支援課題の共有や、支援目標の共有が口頭でのやりとりが中心となってしまっている。	パート職員にも日常業務が可能になるよう、パソコン作業も分担し、情報共有がよりスムーズにできるようにし、一人ひとりの専門スキルも高められるよう、研修制度を充実させたい。